

特別養護老人ホーム入所申込者調査

※特養入所申込者1,293人(平成26年1月1日現在)のうち特養入所、死亡などを除いた893人

			介護支援専門員等の判断		計
			高い ← 緊急性 → 低い		
			1年以内に入所必要	1年以上の待機可能	
家族の判断 高い↑緊急性↓低い	すぐに入所したい	入所緊急型 240人 (26.9%)	家族希望型 200人 (22.4%)	440人 (49.3%)	
	しばらく大丈夫	入所必要型 99人 (11.1%)	入所予約型 206人 (23.0%)	305人 (34.1%)	
	未回答	59人 (6.6%)	89人 (10.0%)	148人 (16.6%)	
計			398人 (44.6%)	495人 (55.4%)	893人 (100%)

専門家の判断では「1年以内に特養入所が必要」は398人 少なくともこれをベースに施設整備計画立てるべきだ

10月27日に行われた厚生常任委員会所管事務調査で第6期介護保険事業計画・第7期高齢者福祉計画(案)づくりについてこれまでの取組が報告されました。私からは、これまでの取組の検証についての報告がないことを指

した。そのうち特養に入所した98人と確認したところ、八木高齢者支援課長はその点を認めました。専門家が1年以内に入所必要としているのに、さらにそれをしぼりこむのは問題です。



【ウメバチソウ】ユキノシタ科の多年草。漢字で「梅鉢草」と書きます。花は白で、名前と同じく、梅の花のような雰囲気があります。花期は8月から10月です。花言葉は「いじらしさ」。田んぼの土手に咲いているを見つけました。

摘するとともに、特別養護老人ホームなどの施設整備について集中的に質問しました。左上の表をご覧ください。市側の説明によると、今年1月1日現在の特養申込者数は1293人で、亡くなったたりした人などを除いた893人について調査したところ、家族の判断や介護支援専門員等の判断で「1年以内に入所必要」とした人の数は398人でした。そのうち「すぐに入所したい」入所緊急型が240人だとのことでした。施設整備(案)はこの入所緊急型人数をベースに施設整備の規模等を割り出

ています。私から「介護支援専門員は専門的な立場から『1年以内に入所必要』者を398人としているのではないかと確認したところ、八木高齢者支援課長はその点を認めました。専門家が1年以内に入所必要としているのに、さらにそれをしぼりこむのは問題です。また、施設整備(案)では特別養護老人ホームなど国民年金受給額の範囲で入所できる施設だけでなく、高負担が求められる介護付き有料老人ホーム等も含めて入所緊急型の人たちの入所を計画している点についても問題にし、「計画案の数値はもっと精査すべきだ」と主張しました。栗本健康福祉部長は「今後詰めていく」と約束しました。11月中、下旬に再び厚生常任委員会です管事務調査を行うとしていますので、これらの問題については今後の動きに注目していかねればなりません。

私は、「グループホームは知的及び精神障害者用の施設が不足している」とあるが、もっと具体的に示してほしい。「障害者雇用率は国が1・76%、県が1・65%となっている。ところが上越管内雇用率は1・51%で低いし、上越市そのものの数値がわからない。しっかりとつかむべきだ。また、なぜこれほど低いのかの原因をハッキリさせないと次期計画は立てられない」と訴えました。これにたいして牛木福祉課長は、数字をつかむなどの努力をしていくと答弁しました。



障がい者のグループホームも不足

市の新しい障害者福祉計画(案)はこれまでの取組を検証したうえで、「だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせる自

また、私の質問で相談支援専門員が厚労省の基準よりも12人も下回っていることが明らかになりました。上越市内の相談支援専門員は現在28人です。栗本健康福祉部長は、「今後とも基準に近づくよう努力していく」と約束しました。



No.1681 2014.11.2
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三二九回

天使とともに

正直言うと、昨年の甥と同じ場所で姪が結婚式をやって何かいいことがあるんだろうかと思っていました。それがね、いいことがいっぱいあったんですよ。考えてみれば、結婚するカップルが違う人間なんですから、当然と言えば当然なのですが……。

結婚式の当日、大潟区の、ある割烹のマイクロバスで長野県飯綱町にあるワイナリー（ワイン醸造所）に向かいました。出発はわが家でした。昨年の場合は大潟で新郎の友人が大勢乗ったのですが、今回は直江津駅前新婦の友人と思われる三人の若い女性が乗っただけで、親戚の者がほとんどでした。

マイクロバスの中では、新婦の父親が今回もまた、バタバタと動き回っていました。「白い吊りバンド、ねじれているよ」と誰かが指摘すると、「すいません、私、目立ちたがり屋なもんで」と言っていて、みんなを笑わせていました。しかし、いくら目立ちたがり屋でもバスの中の主役にはなれませんでした。じつは数ヶ月前に生まれたばかりの甥の赤ちゃんが乗っていたのです。名前は新（あらた）くん。赤ちゃんとは思えないくらい落ち着いた顔をしていて、いい子になっていくものですから、「あら、大人になつてる」などと言われ、みんなの注目を浴びていました。

この日は秋晴れ、青空が広がり、ワイナリーがあるサンクゼールの丘では収穫期を迎えた赤や黄色のりんごがキラキラと光っていました。今回も結婚式はワインを醸造する建物の近くの広場で行われました。大きなケヤキの木の下に教会と同じような配置で椅子が並べられていて、バージンロードには白いバラの花が敷き詰められていました。

私の胸にぐっときた場面は一回目は弟とともに新婦が歩いてきたときにやってきました。新婦の祖父にあたる直江津のFさんが「美里、おめでとう」と声をかけると、新婦が小さな声で「ありがとう」という言葉を返したのです。声は小さくても感謝の気持ちがいつぱい伝わっていったのがよくわかりました。Fさんには子どものころからずっとお世話になってきたのです。

結婚式が順調に進み、新郎新婦が指輪を交換する場面になって、私の前方に白いドレスを着せてもらった赤ちゃんがいることに気づきました。バスの中で甥の子どもをずっと見てきたので、最初は新くんかと思ったのですが、いつの間に来ていたのでしょう。今年の一月に新郎新婦の間に生まれた「いつき」ちゃんだったのです。

記念撮影の場面からは「いつき」ちゃんが加わって、結婚式は一段と盛り上がりを見せました。かわいいドレス姿で新郎に抱かれ、新婦と三人でいると、「いつき」ちゃんはまだに天使のようでした。参列者の心がぐんぐん熱くなりました。

新郎新婦とも友人がいっぱいいます。結婚披露パーティーでは、挨拶で「芸能界」からの出演があったり、外国に住む友人がスライドを送ってくれたりするなど素敵な会になりました。新郎が夕焼けを見ながらプロポーズしたつてのは初めて聞きました。

言うまでもなく、「いつき」ちゃんは式だけでなく結婚披露パーティーでも注目されっぱなしでした。パーティー会場への入場は新郎の腕に抱かれていて、大きな拍手を浴びましたし、「いつき」ちゃんとの記念写真を撮る人が何人もいました。

私はこれまでも十数回の結婚式に出てきていますが、新郎新婦の子どもと一緒に結婚式は初めてでした。帰りのバスのなかでは「いつき」ちゃん、新くんと一緒に「いつき」ちゃん、新くんは私と目が合うとニコツとしてくれました。天使と一緒に結婚式、いい思い出になりました。

尾神岳スカイグランプリ

県知事杯争奪尾神岳スカイグランプリ2014が10月24日、25日と尾神岳で行われました。当日は日本海側から吹き上げる風が吹き、絶好の大会日和となりました。

参加者は40数人。北は北海道から南は九州福岡から集まって、競技が行われました。開会式の司会には懐かしかったですね、元吉川有線放送アナウンサーだった小池さんが務めました。相変わらず素敵な声でした。尾神岳は紅葉の見頃でした。パラで見たらどんな景色に見えたのでしょうか。

高田開府400年特別展

上越市立総合博物館で開かれている高田開府400年記念特別展、「越後の都 高田と徳川家康の血族」を観てきました。

この特別展のために博物館のスタッフは4年もかけて準備してきたそうです。展示されているものの中には高田開府400年だから貸していただけたものが少なくないとい

ます。秀吉が上杉景勝にあてて書いた米沢へ行けという命令書（朱印状）、初めて見ました。伊達正宗がわが子、五郎八姫にあてた手紙、ひらがなで書かれており、やさしさに満ちていましたね。伊達正宗の甲冑倚像は前だけでなく背中も見られました。たくましさには圧倒されました。これまで実物にはお目にかかることのなかった一節切（ひとよぎり）、乃可勢（のかせ）もありました。全体として、高田が越後全体の都であり、北信にも影響力があったことがよくわかります。この特別展は11月16日（日）までです。100年に一度しか見られないものをぜひご覧ください。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月22日(水)	10月29日(水)
上越南消防署	0.040	0.033
上越北消防署	0.057	0.053
新井消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.063	0.053
東頸消防署	0.046	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.043



正直言うと、昨年の甥と同じ場所で姪が結婚式をやって何かいいことがあるんだろうかと思っていました。それがね、いいことがいっぱいあったんですよ。考えてみれば、結婚するカップルが違う人間なんですから、当然と言えば当然なのですが……。

結婚式の当日、大潟区の、ある割烹のマイクロバスで長野県飯綱町にあるワイナリー（ワイン醸造所）に向かいました。出発はわが家でした。昨年場合は大潟で新郎の友人が大勢乗ったのですが、今回は直江津駅前新婦の友人と思われ三人の若い女性が乗っただけで、親戚の者がほとんどでした。

マイクロバスの中では、新婦の父親が今回もまた、バタバタと動き回っていました。「白い吊りバンド、ねじれているよ」と誰かが指摘すると、「すいません、私、目立ちたがり屋なもんで……」と言って、みんなを笑わせていました。しかし、いくら目立ちたがり屋でもバスの中の主役にはなれませんでした。じつは数ヶ月前に生まれたばかりの甥の赤ちゃんが乗っていたのです。名前は新（あらた）くん。赤ちゃんとは思えないくらい落ち着いた顔をしていて、いい子になっていくものですから、「あら、大人になつてる」などと言われ、みんなの注目を浴びていました。

この日は秋晴れ、青空が広がり、ワイナリーがあるサンクゼールの丘では収穫期を迎えた赤や黄色のりんごがキラキラと光っていました。今回も結婚式はワインを醸造する建物の近くの広場で行われました。大きなケヤキの木の下に教会と同じような配置で椅子が並べられていて、バージンロードには白いバラの花が敷き詰められていました。

私の胸にぐっときた場面は一回目は弟とともに新婦が歩いてきたときにやってきました。新婦の祖父にあたる直江津のFさんが「美里、おめでとう」と声をかけると、新婦が小さな声で「ありがとう」という言葉を返したのです。声は小さくても感謝の気持ちがいつぱい伝わっていったのがよくわかりました。Fさんには子どものころからずっとお世話になってきたのです。

結婚式が順調に進み、新郎新婦が指輪を交換する場面になって、私の前方に白いドレスを着せてもらった赤ちゃんがいることに気づきました。バスの中で甥の子どもをずっと見てきたので、最初は新くんかと思ったのですが、いつの間に来ていたのでしょう。今年の一月に新郎新婦の間に生まれた「いつき」ちゃんだったのです。

記念撮影の場面からは「いつき」ちゃんが加わって、結婚式は一段と盛り上がりを見せました。かわいいドレス姿で新郎に抱かれ、新婦と三人でいると、「いつき」ちゃんはまだに天使のようでした。参列者の心がぐんぐん熱くなりました。

新郎新婦とも友人がいっぱいいます。結婚披露パーティでは、挨拶で「芸能界」からの出演があったり、外国に住む友人がスライドを送ってくれたりするなど素敵な会になりました。新郎が夕焼けを見ながらプロポーズしたつてのは初めて聞きました。

言うまでもなく、「いつき」ちゃんは式だけでなく結婚披露パーティでも注目されっぱなしでした。パーティ会場への入場は新郎の腕に抱かれていて、大きな拍手を浴びましたし、「いつき」ちゃんとの記念写真を撮る人が何人もいました。

私はこれまでも十数回の結婚式に出てきていますが、新郎新婦の子どもと一緒に結婚式は初めてでした。帰りのバスのなかでは「いつき」ちゃん、新くんと一緒に「いつき」ちゃんは私と目が合うとニコツとしてくれました。天使と一緒に結婚式、いい思い出になりました。

青空の下、尾神岳スカイグランプリ

県知事杯争奪尾神岳スカイグランプリ2014が10月24日、25日と尾神岳で行われました。当日は日本海側から吹き上げる風が吹き、絶好の大会日和となりました。

参加者は40数人。北は北海道から南は九州福岡から集まって、競技が行われました。開会式の司会は懐かしかったですね、元吉川有線放送アナウンサーだった小池さんが務めました。相変わらず素敵な声でした。尾神岳は紅葉の見頃でした。パラで見たらどんな景色に見えたのでしょうか。

夕方からはスカイグランプリ参加者の交流会でした。地元の太鼓団体、鼓舞衆のみなさんや越後上越上杉おもてなし武将隊のみなさんがゲスト出演し、大いに盛り上げてくれました。太鼓の演奏も武将隊の演武も今回は本格的な照明の中で行われました。色ひとつで様々なイメージをつくれるんですね。改めて照明ってすごいなと思いました。交流会では乾杯の発声

をさせてもらいました。マイクを持った途端、「ノリちゃん、来年頑張れ」という声がパラをやっている人の間から聞こえてきました。選手にはエントリーされていない上越市内の人だと思います。ありがたいですね。会が終わってから、武将隊のみなさんと「いざ、出陣!」という声をあげ、記念撮影をしました。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月22日(水)	10月29日(水)
上越南消防署	0.040	0.033
上越北消防署	0.057	0.053
新井消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.063	0.053
東頸消防署	0.046	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.043

春よ来い

第三二九回

天使とともに

正直言うと、昨年の甥と同じ場所で姪が結婚式をやって何かいいことがあるんだろうかと思っていました。それがね、いいこといっぱいあったんですよ。考えてみれば、結婚するカップルが違う人間なんですから、当然と言えば当然なのですが……。

結婚式の当日、大潟区の、ある割烹のマイクロバスで長野県飯綱町にあるワイナリー（ワイン醸造所）に向かいました。出発はわが家でした。昨年場合は大潟で新郎の友人が大勢乗ったのですが、今回は直江津駅前新婦の友人と思われる三人の若い女性が乗っただけで、親戚の者がほとんどでした。

マイクロバスの中では、新婦の父親が今回もまた、バタバタと動き回っていました。「白い吊りバンド、ねじれているよ」と誰かが指摘すると、「すいません、私、目立ちたがり屋なもんで……」と言って、みんなを笑わせていました。しかし、いくら目立ちたがり屋でもバスの中の主役にはなれませんでした。じつは数ヶ月前に生まれたばかりの甥の赤ちゃんが乗っていたのです。名前は新（あらた）くん。赤ちゃんとは思えないくらい落ち着いた顔をしていて、いい子になっていくものですから、「あら、大人になつてる」などと言われ、みんなの注目を浴びていました。

この日は秋晴れ、青空が広がり、ワイナリーがあるサンクゼールの丘では収穫期を迎えた赤や黄色のりんごがキラキラと光っていました。今回も結婚式はワインを醸造する建物の近くの広場で行われました。大きなケヤキの木の下に教会と同じような配置で椅子が並べられていて、バージンロードには白いバラの花が敷き詰められていました。

私の胸にぐっときた場面は一回目は弟とともに新婦が歩いてきたときにやってきました。新婦の祖父にあたる直江津のFさんが「美里、おめでとう」と声をかけると、新婦が小さな声で「ありがとう」という言葉を返したのです。声は小さくても感謝の気持ちがいつぱい伝わっていったのがよくわかりました。Fさんには子どものころからずっとお世話になってきたのです。

結婚式が順調に進み、新郎新婦が指輪を交換する場面になって、私の前方に白いドレスを着せてもらった赤ちゃんがいることに気づきました。バスの中で甥の子どもをずっと見てきたので、最初は新くんかと思ったのですが、いつの間に来ていたのでしょう。今年の一月に新郎新婦の間に生まれた「いつき」ちゃんだったのです。

記念撮影の場面からは「いつき」ちゃんが加わって、結婚式は一段と盛り上がりを見せました。かわいいドレス姿で新郎に抱かれ、新婦と三人でいると、「いつき」ちゃんはまだに天使のようでした。参列者の心がぐんぐん熱くなりました。

新郎新婦とも友人がいっぱいいます。結婚披露パーティでは、挨拶で「芸能界」からの出演があったり、外国に住む友人がスライドを送ってくれたりするなど素敵な会になりました。新郎が夕焼けを見ながらプロポーズしたつてのは初めて聞きました。

言うまでもなく、「いつき」ちゃんは式だけでなく結婚披露パーティでも注目されっぱなしでした。パーティ会場への入場は新郎の腕に抱かれていて、大きな拍手を浴びましたし、「いつき」ちゃんとの記念写真を撮る人が何人もいました。

私はこれまでも十数回の結婚式に出てきていますが、新郎新婦の子どもと一緒に結婚式は初めてでした。帰りのバスのなかでは「いつき」ちゃん、新くんと一緒に「いつき」ちゃんは私と目が合うとニコツとしてくれました。天使と一緒に結婚式、いい思い出になりました。



菖蒲高原で新そば祭り

市内各地で新そばが出始めました。26日には大島区菖蒲高原で新そば祭りが行われ、好天に恵まれたこともあり、大勢のお客さんでにぎわいました。

28日には市議会食料農業農村議員連盟が菖蒲の田んぼで取り組んでいる「市議田」の収穫祭が菖蒲のセンターであり、そこでも新そばや手づくりのご馳走が振舞われました。

左上の写真は菖蒲のセンターで新そばを茹でているところです。

高田開府400年特別展

上越市立総合博物館で開かれている高田開府400年記念特別展、「越後の都 高田と徳川家康の血族」を観てきました。

この特別展のために博物館のスタッフは4年もかけて準備してきたそうです。展示されているものの中には高田開府400年だから貸していただけたものが少なくないとい

ます。秀吉が上杉景勝にあてて書いた米沢へ行けという命令書（朱印状）、初めて見ました。伊達正宗がわが子、五郎八姫にあてた手紙、ひらがなで書かれており、やさしさに満ちていましたね。伊達正宗の甲冑倚像は前だけでなく背中も見られました。たくましさに圧倒されました。これまで実物にはお目にかかることのなかった一節切（ひとよぎり）、乃可勢（のかせ）もありました。全体として、高田が越後全体の都であり、北信にも影響力があったことがよくわかります。この特別展は11月16日（日）までです。100年に一度しか見られないものをぜひご覧ください。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月22日(水)	10月29日(水)
上越南消防署	0.040	0.033
上越北消防署	0.057	0.053
新井消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.047	0.053
頸北消防署	0.063	0.053
東頸消防署	0.046	0.047
高士分遣所	0.050	0.043
名立分遣所	0.050	0.043